

佳作

ぼくのなつまつり

宮城県 白石市立小原小学校二年 佐藤 新汰

四月、ぼくは二年生になって、はじめての生活科の時間に、

「どんなやさいをうえたいですか。」

と先生にきかれました。ぼくは、

「ミニトマト。」

とすぐに答えました。ぼくは、赤いミニトマトが好きで、ずっとうえたいと思っていましたからです。

そのつぎの週、先生がミニトマトのなえを買ってきてくれました。そのなえはみどり色でも小さくてかわいかったです。ぼくは、くきがおれないようにやさしくポットからなえを出して、はちにうえました。うえながら、

「大きなあれ、元気になあれ。」

と言いながら、ひりょうのまざった土をかぶせてあげました。それから、毎日、水をあげたり、わきめ

をつんだりして、たいせつにそだてました。水やりをするとき、わきめがないかチェックしました。理由は、ミニトマトのえいようをとられないようにするためです。

一か月後、なえの大きさは、ぼくの足のつけね位になりました。黄色の小さな花もさきました。星のような形で、かわいかったです。花がかれたあと、小さな小さなビーズみたいなかわいいみどり色のみが出ていました。ぼくは、それを見つけたとき、心がドキドキして、

「赤ちゃんだ。赤ちゃんが生まれた。」

と大きな声でさけびました。早く赤いみになってほしいなあと思いました。

ぼくは、毎日ミニトマトが赤くなるのを楽しみにしながら、せわをしました。そしてなえの大きさも、ぼくのむね位にそだち、ぼくには、心ばいなことができました。小原の山にいるさるがミニトマトをねらったべにくることです。ぼくと先生は作せんをたてました。帰るときにさるにたべられないようにはちを教室に入れることにしました。一どだけそのままにして帰ったときがあります。もうすぐ真っ赤になるミニトマトをさるにたべられてしまいました。

とてもかなしくてなみだが出そうになりました。

それからもせわをつづけ、ついに、赤いみになりました。ぼくがみをとってたべたら、あまずっぱくて、おいしかったです。なえの大きさも、もうぼくのしん長と同じ位です。

たいせつにそだてたミニトマトが、赤いみになったときは、とてもうれしかったです。なつたみを見て、

「ほう石だ。」

と大きな声でさけびました。きらきら光りかがやいてまぶしかったです。たいせつにそだてると、その気もちがミニトマトにもつたわって、ぼくとミニトマトの心がつながっているんだなと思いました。これからもたいせつにそだてたいです。